

北野天満宮 周辺エリア

～北野天満宮・御土居・平野神社・大報恩寺
上京北野界わい景観整備地区～

エリア概要

- 北野天満宮は、947年、平安京の北西（天門）に皇城鎮護の社として創建。現在の御社殿・中門・廻廊などは1607年に豊臣秀頼が再建したもので、社地の西側には秀吉による御土居がある。
- 近接する平野神社は、その造営時期は一層時代をさかのぼる。近世には、既に北野天満宮の東側まで都市化が進んでおり、比較的早い時期に、地区一帯の市街化が進展した。

- 北野天満宮は、御社殿北側の樹林を成長させ、境内の梅林を養成。また、古くより「北野松原」と謳われた境内を再興し、参道には松を植樹。さらに御土居周辺の樹木など、緑の増加に努めており、優れた緑地空間が形成されている。
- 平野神社境内においても、境内には数多くの桜の木が植えられており、京都の花の名所となっている。

北野天満宮

天曆元年(947)に菅原道真公をまつて創建された。¹⁾ 御社殿の北背後には樹林が茂り、御土居とともに一体的な空間を形成している。



御土居

豊臣秀吉による京都改造の一環として、天正19年(1591)京の周囲に築かれた土塁。市街化の拡大とともに大部分は破壊されたが、天満宮境内では良好に残り、国の史跡に指定され、樹木と一体的な景観を形成している。²⁾



上京北野界わい景観整備地区

市民の信仰を集める北野天満宮(947年創建、千本釈迦堂(1221年建立)が建立され、それらの門前町として形成された歴史の古い市街地である。特に、北野天満宮の東門前に位置する上七軒は、京都では最も歴史の長い茶屋町で、門前町の賑わいと芸能文化の発展に寄与し、優雅で落ち着いた町並みを形成してきた。一方、当地区は西陣機業の集中する市街地でもあり、その関連業も含む同業者町を形成し、職・住が共存した趣のある町並み景観を呈している。



平野神社と参道

平安遷都の行われた延暦13年(794)の創建。本殿は国の重要文化財。北野天満宮と平野神社をつなぐ紙屋川沿岸は緑の濃い河川と閑静な住宅が優れた風致を形成している。³⁾



御前通

御前通の名称は、北野天満宮の前(東)を通ることに由来している。⁴⁾ 現在も町家が残り、北野天満宮の樹木と一体的な景観が形成されている。



紙屋川

天神川の上流をいう。紙屋川に沿って御土居が築かれ、樹木との一体的な景観が見られる。

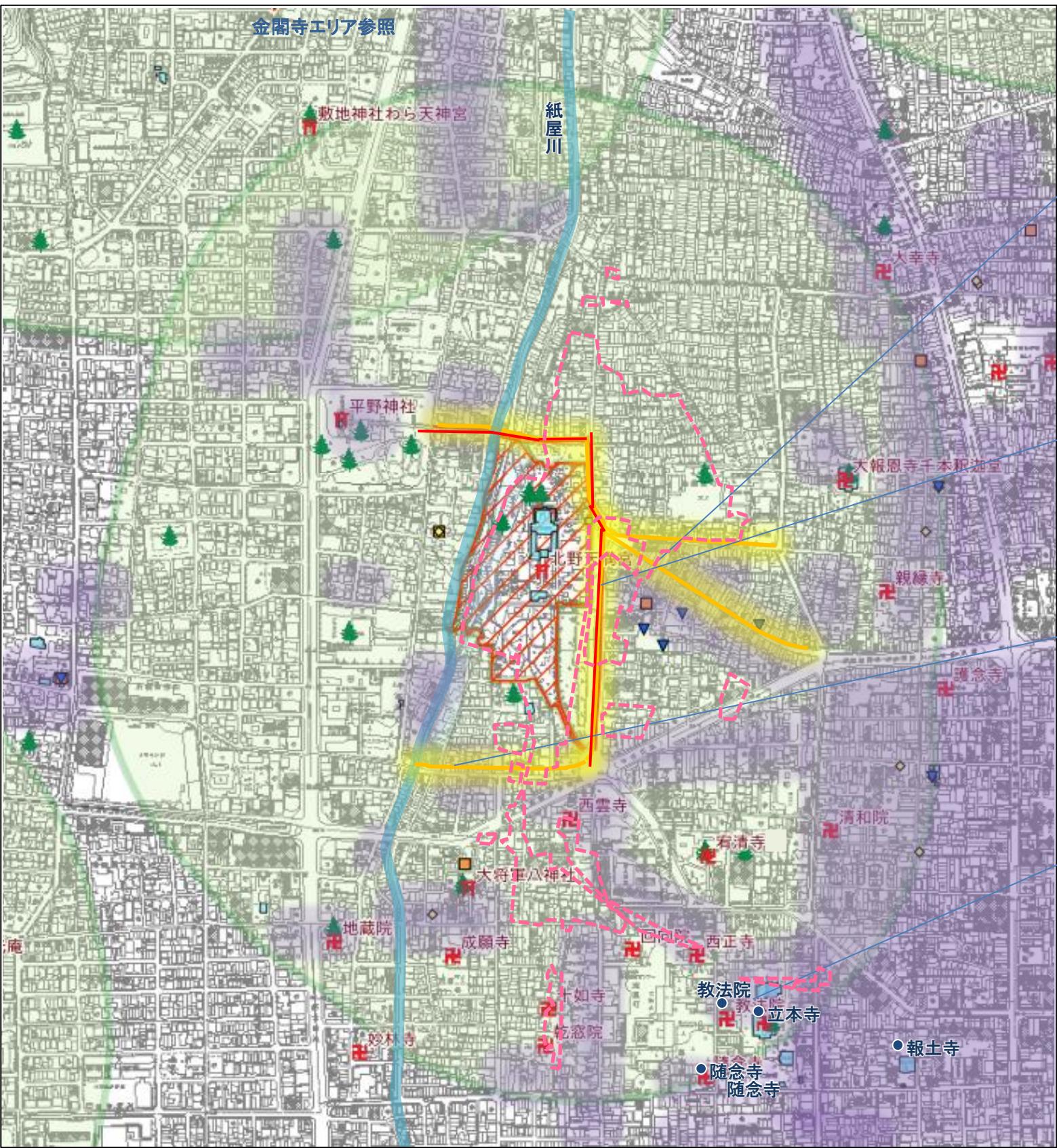


大報恩寺(千本釈迦堂)

北野釈迦堂とも呼ぶ。1221年の開創。応仁の乱等の中で、本堂(釈迦堂)のみが残り、洛中で、現存最古の木造建築物で、国宝となっている。⁵⁾



エリアの概要



上七軒

上七軒は文安元年（1444年）に北野天満宮御社殿の一部が焼失し、修復の残材を用いて茶店を七軒建てたことに始まる。天正15年（1587年）豊臣秀吉が北野大茶会を催した折、休憩所となった茶屋で御手洗団子を献上したところ太閤にいたく気に入られ茶屋の特権が与えられたのが原点となり門前町として発展し形成された。明治維新以前は北野領で、茶屋数は、元禄一正徳（1688-1716）頃には32軒を数えた。また、西陣を近くに控えて西陣の機業家を主な顧客とした。⁷⁾ 京都では最も歴史の長い茶屋町であり、界わい景観整備地区に指定している。



御前通

御前通の東側には宮仕が集住していた。また、上七軒遊郭に隣接し、宝永4年（1707）には6軒の茶屋があった。明治維新前は北野天満宮領であった。⁸⁾ 現在は町家が残し、北野天満宮の樹木と一体的な景観が形成されている。



今出川通が開通するまでは、東西の参道はこの通りであったようで、明治25年には既に市街化していた。町家等が点在している。



寺社の集積

江戸時代、立本寺をはじめとする寺々の移転や新造があり、新寺町をつくるに至り、⁹⁾周囲も市街化していった。



(左) 乾窓院
(右) 立本寺

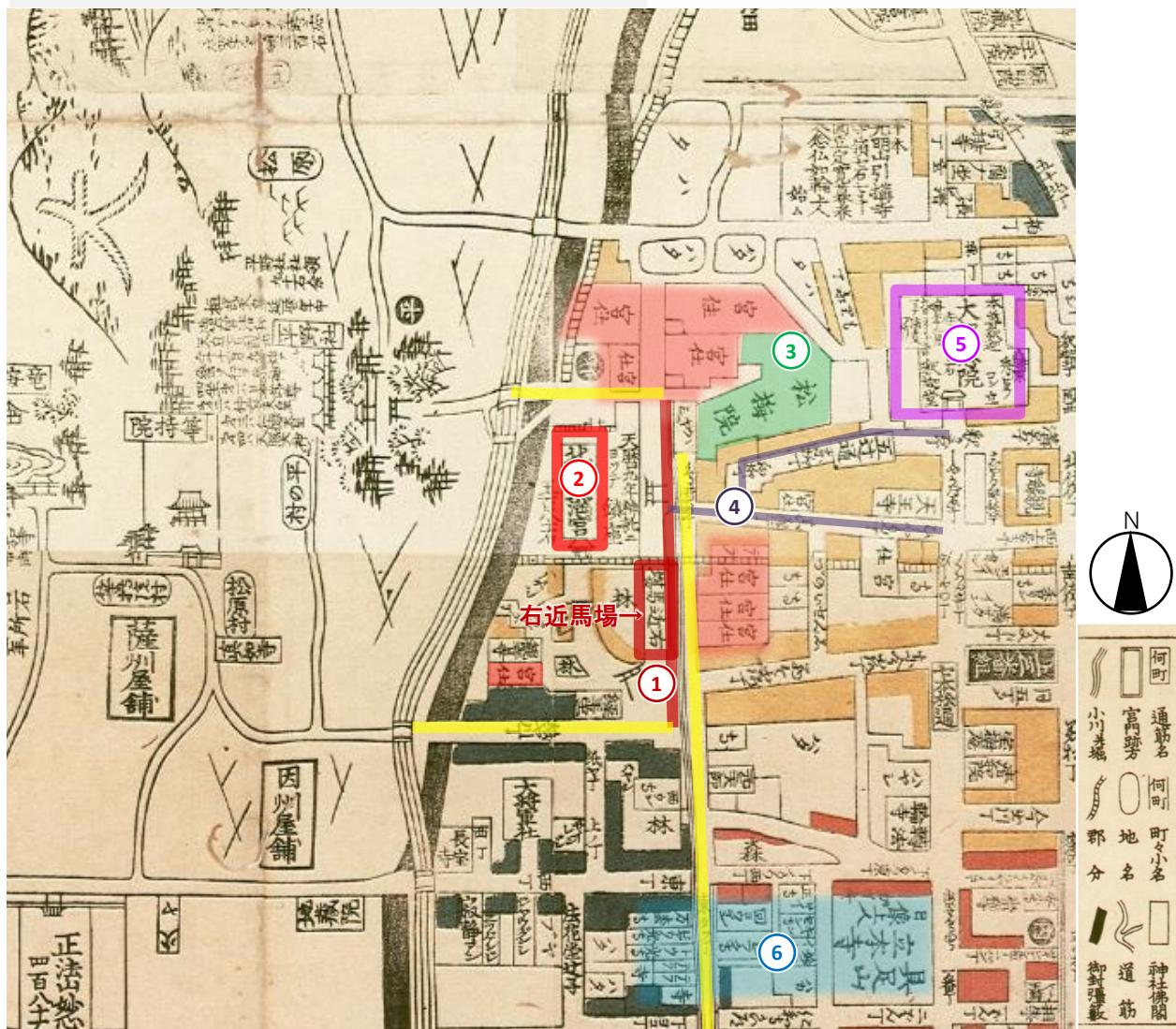
【凡例】	建造物・庭園	樹木
視点場（境内）	景観重要建造物・歴史的風致形成建造物	天然記念物
視点場（参道等）	歴史的意匠建造物	保存樹
近景デザイン保全区域	界わい景観建造物	区民の誇りの木
特に着目する通り	京を彩る建物や庭園	
明治25年以前から存在する市街地	文化財（建築物）	
界わい景観整備地区	文化財（史跡・名称）	
	国土地理院社寺データ等	明治16-18年時点の境外
		明治16-18年時点の境内

※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

エリアの土地利用の変遷 (1)

明治2年(1869年)(上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)

①右近馬場

近衛官人が大内節儀の走馬の用に供したという。¹⁰⁾

②北野天満宮

学問の神様として崇敬される菅原道真公をお祀りした全国天満宮の総本社であり、古くより「北野の天神さま」と仰ぎ親しまれる。皇室のご崇敬をはじめ、公家や武家・商人など京都の人々に篤く信仰されるほか、全国各地に北野天満宮の御神霊が勧請されている。室町期以来、人々の参詣でにぎわった北野は、天正年間、太閤秀吉が催した「北野大茶湯」の舞台となるなど、日本文化の礎を築いた京都の文化・伝統の中心地として知られている。

○北野天満宮境内

絵図には宮仕が描かれており、御前通の東側には宮仕が集住し、陰陽師も居住していたという。また、上七軒に隣接し、宝永4年(1707)には6軒の茶屋があった。明治維新前は北野天満宮領であった。¹²⁾

③松梅院

北野天満宮の中心的な社家。建武3年(1336)以後、慶応4年(1868)神仏分離で廃絶するまでその地位を保った。中世から連歌会が頻繁に行われた。¹³⁾

④上七軒

明治維新以前は北野領で、茶屋数は、元禄一正徳(1688-1716)頃には32軒を数えた。また、西陣を近くに控えて西陣の機業家を主な顧客とした。¹⁴⁾

⑤大報恩寺

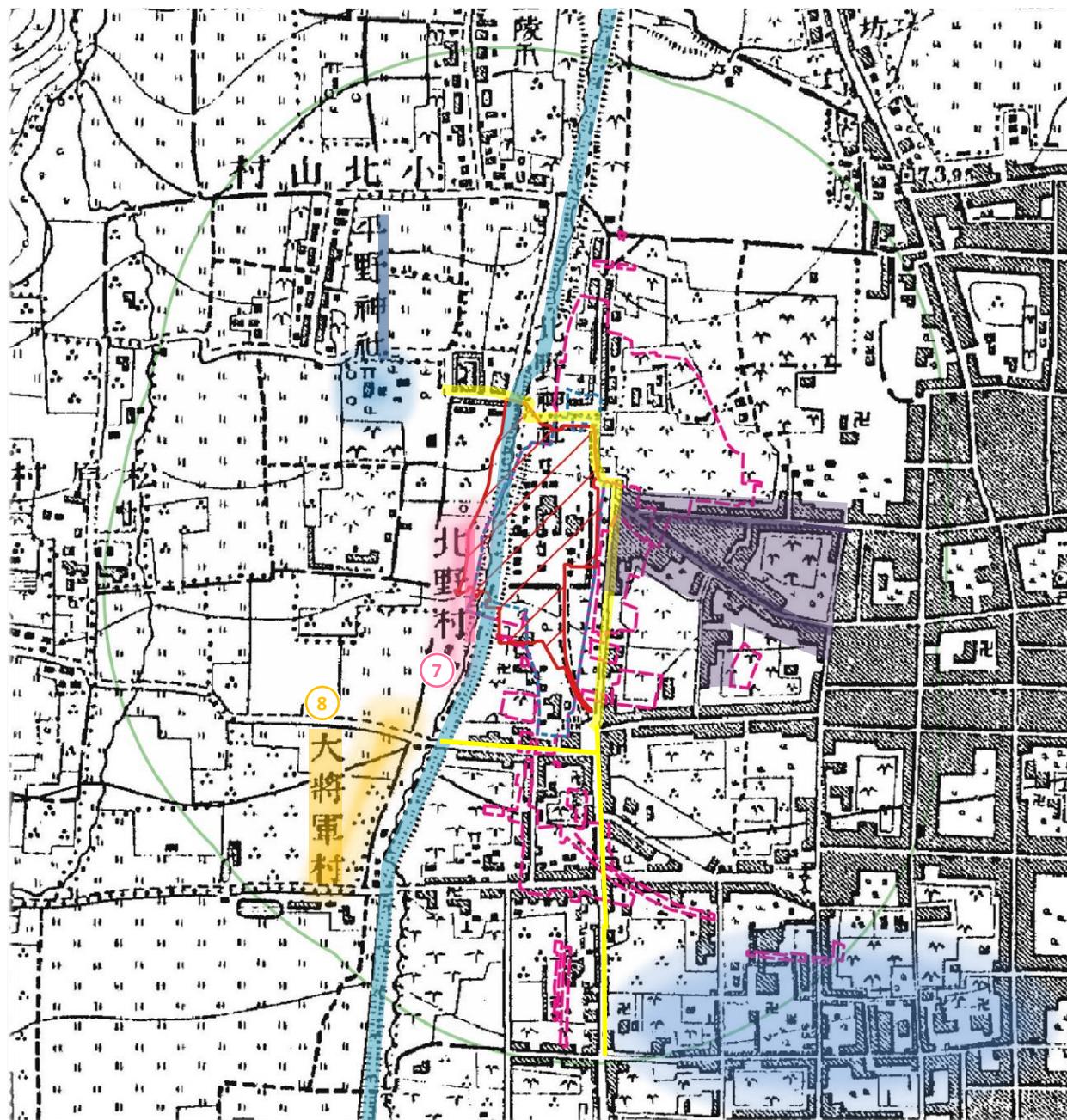
中世に建立された。¹⁵⁾

⑥寺社の集積

江戸時代、立本寺をはじめとする寺々の移転や新造があり、新寺町をつくるに至る。¹⁶⁾

エリアの土地利用の変遷 (2)

明治25年(1892年)



--- 明治16-18年時点の境外地 --- 近景デザイン保全区域 資料: 複製地形図(明治中期)
--- 明治16-18年時点の境内地 ▨ 視点場(境内) (国土地理院所蔵)
--- 特に着目する通り 画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3,000)を参考にし、作成したものです。

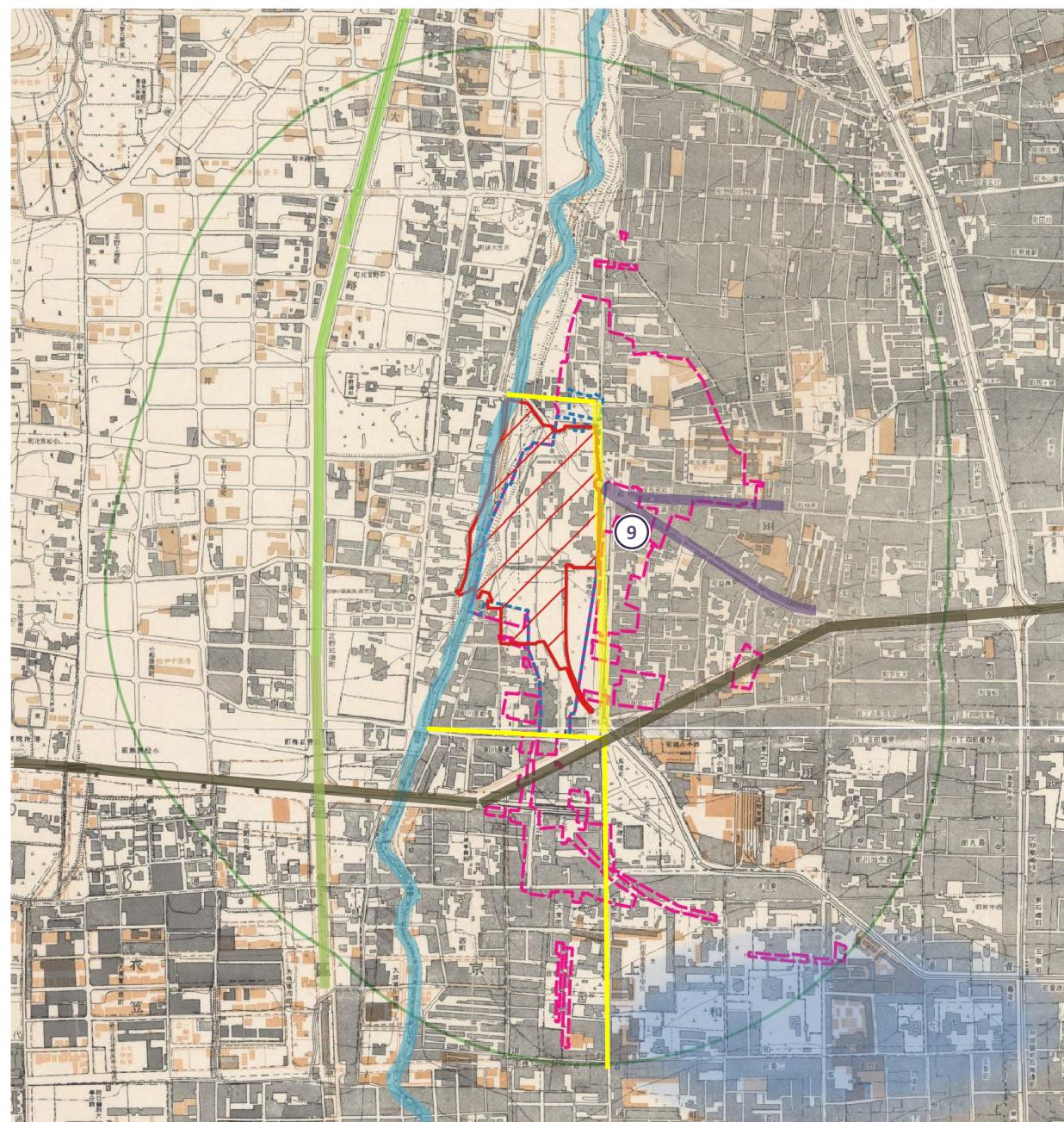
⑦北野村

近世前期は松原村と総称されることもあったが、早くから北野社門前近くに位置した部分が北野村(現北野白梅町近辺)として独自の動きを示した。
宝永3年(1706)に初めて史料にみえる。¹⁷⁾

⑧大將軍村

中世において「大將軍保」として、北野社の支配をうけており、割木の納入、堀跡の土埋や北野社の門の建設などに動員され、北野社からさまざまな負担が課せられている。¹⁸⁾

昭和28年(1953年)



--- 昭和10年都市計画図の内容 資料: 京都市都市計画基本図(昭和28年)
--- 昭和28年の修正測図 (京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))
 画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

千本通が拡張され、市電が開通してからは、急速に人家が密集して、ビロードを主とする織物工場や、商家が軒を並べるようになった。
今出川通が白梅町まで開かれて、北野社を中心に、すっかり景観が変わった。¹⁹⁾

⑨北野をどり(上七軒歌舞練場)

昭和27年から始まり、毎年4月中旬上七軒歌舞練場で行われている。²⁰⁾

北野天満宮境内の歴史的資産と守っていききたい眺め

北野天満宮

東西に通る今出川通に南面し、南北に通る御前通西側に沿って北に広がる。境内西側を天神川が南流する。今出川より北に向かって一の鳥居・二の鳥居・三の鳥居・楼門・中門（三光門）をくぐり、拝殿・本殿に至るが、すべて南面する。天満宮・天満自在天神・天満天神・北野天神・北野社・北野神社などとよばれてきたが²¹⁾、現在は北野天満宮を正称とし、全国約一万二千社を数える「天神さん」の総本社として信仰される。境内は天正年間に太閤秀吉が催した「北野大茶湯」の舞台として有名で、伝統芸能・文化の発祥地と謳われる。御祭神である菅公は、「文道大祖 風月本主」と仰がれ、学問のみならずあらゆる文化芸能の祖神として信仰されている。

文化財

国宝	本殿、石の間、 拝殿及び楽の間	81				
国指定 重要 文化財	中門	82	廻廊	83 84	後門	85
	透塀	86 87	東門	88		
国指定 史跡	御土居	238				
市指定 文化財	絵馬所	849				

[国指定国宝・重要文化財]



本殿、石の間、拝殿及び楽の間※



中門※



廻廊※



後門※



透塀※



東門※

[国指定史跡]



御土居※

[市指定文化財]



絵馬所



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

視点場（境内）	建造物・庭園	天然記念物
視点場（参道等）	景観重要建造物・歴史的風致形成建造物	保存樹・区民の誇りの木
近景デザイン保全区域	歴史的意匠建造物	
	界わい景観建造物	
	京を彩る建物や庭園	
	文化財（建築物）	
	文化財（史跡・名称）	
	国土地理院社寺データ等 ※	

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

北野天満宮境内の歴史的資産と守っていききたい眺め(2)

■ 樹木

オガタマノキ：北野天満宮 [区民の誇りの木]
上京F03

神霊を「おき奉る」ことからこの名があり、神木にふさわしい勇姿です。



ケヤキ：御土居 上京F05 [区民の誇りの木]

豊臣秀吉の京都大改造の一つが御土居の築堤。市内には9か所の国指定史跡が残っていますが、もっともよく原形をとどめているのが、北野天満宮西側部分で、その上に育つのがこのケヤキ。樹形に乱れはありますが、根元のしっかりとした巨木です。



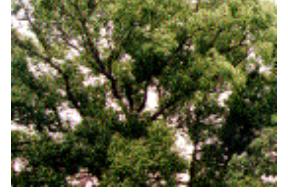
イロハモミジ：御土居 上京F06 [区民の誇りの木]

御土居の法面にあり、素直に伸びています。上京区内では最大級。



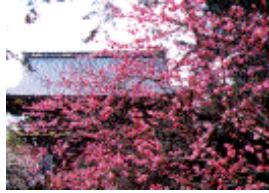
クスノキ：北野天満宮 上京F07 [区民の誇りの木]

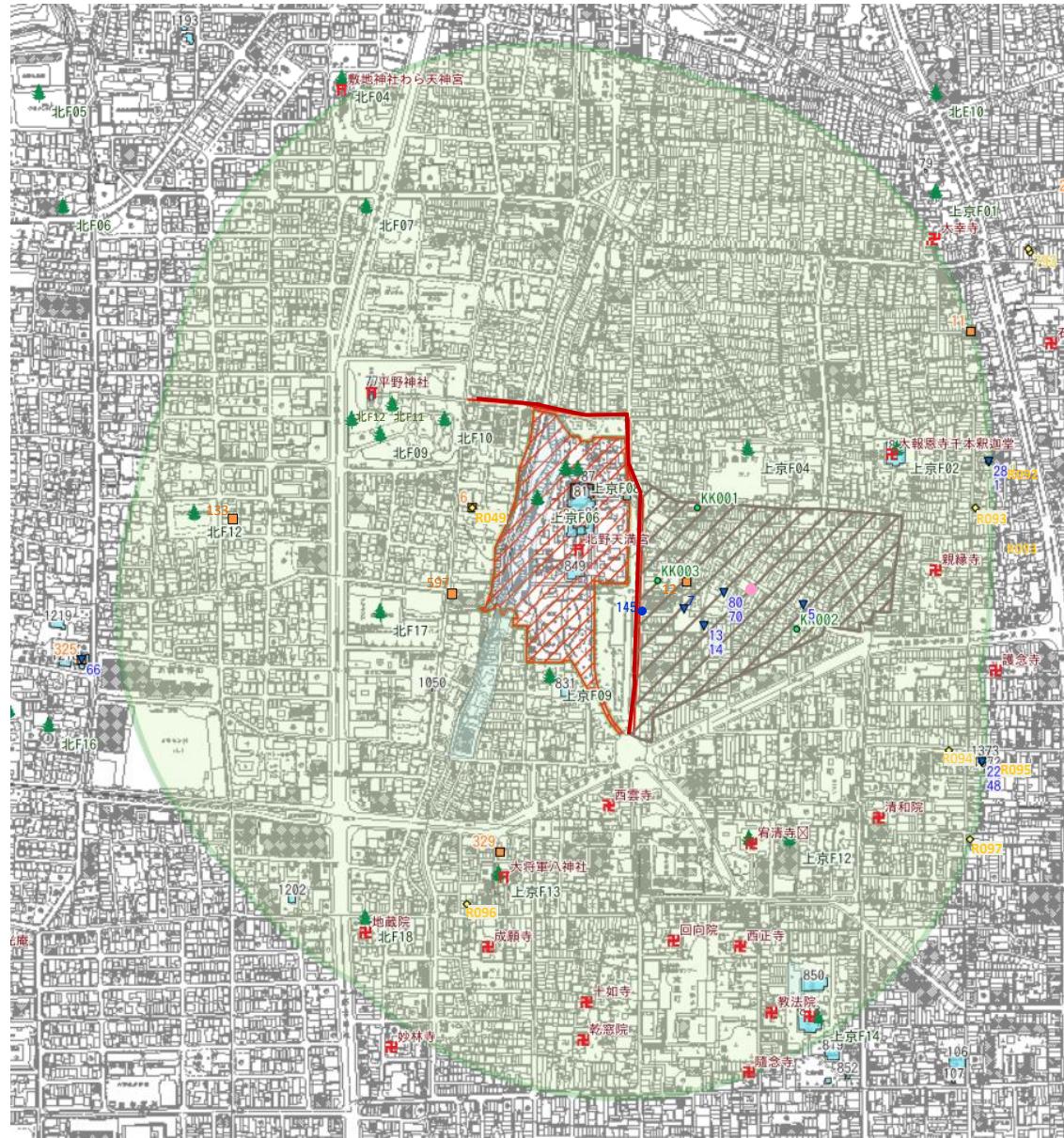
高さ、枝張ともりっぱな大木です。広い境内でひときわ目だっています。



ウメ：北野天満宮 上京F08 [区民の誇りの木]

北野天満宮は菅原道真公を御祭神としてまつています。道真公と梅との関わりは深く、幼少の時から歌に詠み、梅をこよなく愛されたと伝わります。境内には、一重や八重など、約50品種、およそ1,500本のウメが育っています。





【凡例】		
	視点場（境内）	樹木 ▲ 天然記念物 ● 保存樹・区民の誇りの木
	視点場（参道等）	
	近景デザイン保全区域	建造物・庭園 ▼ 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物 ◆ 歴史的意匠建造物 ● 界わい景観建造物 ■ 京を彩る建物や庭園 □ 文化財（建築物） □ 文化財（史跡・名称）
	特に着目する通り	
	明治25年以前から存在する市街地	※ 国土地理院社寺データ等
	界わい景観整備地区	

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

平野神社

[国指定重要文化財(本殿)、府指定文化財(拝殿等)、府登録文化財(縣社等)]



本殿※
重文



拝殿※
府指定



南門※
府指定



縣社※
府登録



中門※
府登録

二条天皇陵の東方にある。「延喜式」神名帳の葛野郡に「平野祭神四社(並名神大、月次新嘗)」と載る式内社で、22社に列する(二十二社註式)。祭神は今木・久度・古開の三神および相殿比売神の四座。

近世の社殿は、「京都御役所向大概覚書」に「御本社・県社・向唐門・廻廊・拝殿・祓殿・神楽所・御供所・神宝蔵・表門・神人居所」などが記され、社領は100石とみえる。現存の本殿二棟は、荒廃していた社殿を寛永年間(1624-44)西洞院時慶が建造したもので比翼春日造といわれる(国指定重要文化財)。²²⁾

イチョウ 北F09 [区民の誇りの木]

社務所前にある大木で、訪れる人々を迎えています。

クスノキ 北F10 [区民の誇りの木]

神社は源氏・平氏の氏神としてあがめられています。本殿前の広場にあるこのクスノキは、幹周が5m、葉張りが30mもある大木です。歴史を感じさせるとともに境内の落ち着いた雰囲気をつくりだしています。

ソメイヨシノ 北F11 [区民の誇りの木]

参道の入り口を飾る両側のソメイヨシノは、春には花のトンネルをつくれます。この並木の奥にサクラの苑地があり、「平野の夜桜」として多くの人に親しまれています。総数は約500本、サクラの種類は45種にもおよび、早咲きものは3月中旬に、遅いものは4月下旬に開花します。

シダレザクラ 北F12 [区民の誇りの木]

10世紀に始まると言われる「桜祭」は、現在も毎年4月10日に行われています。神社の代表的なサクラの一つといわれているのがこの一重のシダレザクラです。このほかにも寝覚桜や平野妹背桜などが有名です。

北野天満宮周辺の歴史的資産(2)

大報恩寺千本釈迦堂

[国宝(本堂/千本釈迦堂)]



本堂(千本釈迦堂)※1
国宝

瑞王山と号し、真言宗智山派。俗に千本釈迦堂の名で知られ、また北野釈迦堂ともよぶ。
「猫間中納言」として知られる藤原光隆の従者岸高が、この地を義空に喜捨し、承久3年に小堂を備え仏像を安置したのに始まるという。応仁の乱や享保15年(1730)の大火で焼け、本堂(釈迦堂)のみが残った(西陣天狗筆記)。正面五間・側面六間・入母屋造檜皮葺で、洛中の現存最古の木造建築物で、国宝となっている。²³⁾



エノキ ▲上京F02
本堂は洛中最古の木造建築。
それを守るようにして伸びた雄大な葉張が特徴。

[区民の誇りの木]

立本寺

[市指定文化財(本堂等)、市指定名勝(庭園)]

一番町の中央に約5000坪の寺地を占め、表大門は七本松に東面する。具足山と号し、日蓮宗の大本山。本尊は十界曼荼羅。²⁴⁾



本堂・表門刹堂(鬼子母神堂)・客殿(附
玄関1棟・小玄関1棟)・鐘楼及び表門※2
市指定



庭園
市指定名勝



ケヤキ ▲上京F14
本殿東の数本のケヤキが、ボリュームのある緑の景観をつくりあげています。

[区民の誇りの木]

観音寺

[市指定文化財(本堂等)]



本堂及び礼堂(2棟)
市指定

北野天満宮(北野社)二の鳥居の西に位置。朝日山と号し、真言宗泉涌寺派。本尊十一面観音は俗に東向観音という。現在の堂宇は慶長12年(1607)北野社再興の時、豊臣氏が建立したものと伝える(坊目誌)。²⁵⁾

上京北野界わい景観整備地区

[界わい景観建造物]

市民の信仰を集める北野天満宮(947年祭祀)、千本釈迦堂(1221年建立)が建立され、それらの門前町として形成された歴史の古い市街地である。特に、北野神社の東門前に位置する北野上七軒は、京都では最も歴史の長い茶屋町で、門前町の賑わいと芸能文化の発展に寄与し、優雅で落ち着いたある町並みを形成してきた。

一方、当地区は西陣機業の集中する市街地でもあり、その関連業も含む同業者町を形成し、職・住が共存した趣のある町並み景観を呈している。

上七軒通、七本松通、五辻通など通りごとに、町の機能や性格そして景観を異にし、地域の固有性を発揮している。



材源(主屋)
●KK001



木谷邸(主屋、塀)
●KK002



桜井屋(主屋)
●KK003

上七軒歌舞練場

[歴史的風致形成建造物]



▼7

(指定理由)
・寺院建築を模した客席部分、洋風のモダンなデザインの劇場部分、漆喰塗の真壁の和風デザインの稽古場・宴会場といった多様な建造物群が庭園と融合し、独特な構成となっている。京都では最も歴史の深い花街上七軒の中で、今なおその中心的な存在である。北野天満宮との関わりが深く、昭和27年(1952)に北野天満宮千五十年大万燈会を記念して上七軒歌舞練場を舞台に北野をどりが創設され、現在でも毎年、春に開催されている。夏にはビアガーデンも開かれており、芸舞妓が接待するサービスが人気を呼び、多くの人を訪れている。

※1: (画像) 京都府地図情報統合型地理情報システム (GIS)
※2: (写真提供) 京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

北野天満宮周辺のその他の歴史的資産(1)

■ 景観上重要な建築物、庭園等

梶田家

[歴史的意匠建造物・景観重要建造物・歴史的風致建造物・国登録文化財(主屋、表蔵)]



◆R095 / ▼22▼48

(指定理由)

主屋は明治中期の西陣地区における表屋造りの典型的な例として貴重であり、加えて、1、2階の座敷廻りには吟味された部材による丁寧な造作や良質な意匠が維持されており、2階建ての衣装蔵および雑物蔵、高塀を含めて、西陣の商屋の意匠を良好に継承する貴重な建造物である。

井上邸(旧森留)

[景観重要建造物]



▼5

(指定理由)

主屋が京都最古の花街である上七軒に残る数少ない茶屋の様式を良好に継承する建造物として貴重であり、界わい景観整備地区でもある上七軒の景観を構成する重要な要素となる建造物である。

佐々木邸

[歴史的意匠建造物・景観重要建造物・歴史的風致形成建造物]



◆R092/▼28 ▼1

(指定理由)

必ずしも建築年代は明確ではないが、町家の基本構成をとりながら、お茶を楽しむ別宅の建築としてユニークな建築といえる。庭も建築当時の風情を維持している。

当敷地は西陣の南に位置している。西陣の織屋界わいで茶道が嗜まれていた時代の風情を残す建築である。建物全てが、お茶のためにしつらえてあるといっても過言でもないほどの工夫がなされている。庭園には大小の石灯籠、手水鉢が配され「不許葷酒肉入山門」の石碑まで建てる諧謔の精神にも富んでいる。その庭園を囲む高塀は、直行する二方向の通りの景観形成に寄与している。

林家住宅

[国登録文化財(主屋・離れ)・景観重要建造物・歴史的風致形成建造物]



▼13 ▼14
国登録

(指定理由)

茶屋当時の姿が良く残され、随所に見られる凝った造作は非常に貴重なものである。また、釜戸(クド)や走り等の設備も含めて、保存の状態は極めて良好で、復元された外観意匠と共に、上七軒の歴史を今に伝え、地域の景観を良好に継承するものである。

西方尼寺・本光院

[景観重要建造物・歴史的風致形成建造物]



▼70 ▼80

(指定理由)

北野天満宮の東側にある京都の中で最も歴史の古い茶屋町である上七軒通に面しており、境内を囲む築地塀やそれを越えて姿を見せる樹木、本堂や庫裡、地蔵堂の屋根は、上七軒通の町並み景観にとって重要な要素となっている。

町名に残る天台宗の真盛上人に由来し、古くから尼僧の修業の場としてだけでなく、「利休の井」や利休手植えの五色八重散椿など、千利休や豊臣秀吉にまつわる話が伝えられ、茶道裏千家との縁が深く現在でも上七軒の芸妓・舞妓の茶道の稽古は当寺で行うなど、茶道の伝承に寄与するとともに、茶屋町である地域にも貢献している。また、比叡山延暦寺の千日回峰行において、行者の京都大廻りの際の立寄所として祈りと信仰についての行事に関わる重要な役割を担っており、祈りと信仰のまち京都及び文化・芸術のまち京都の歴史的風致を形成している。

川勝邸



◆812

鎌田邸



◆813

タマヒメ酢齋藤造酢店



◆814

服部邸



◆815

北野天満宮周辺のその他の歴史的資産(2)

聖ヨゼフ修道院

[国登録文化財(門の家、門)]



門の家、門※/国登録

門は煉瓦造、門番小屋は煉瓦壁と木造部が特徴的であり、中世的な意匠を持っている。全く老朽化を感じさせない堅固な建物で、周囲の歴史的な景観を醸し出している。

聖ヨゼフ修道院門の家は、旧住友家衣笠邸の門衛所として大正9年(1920)に建てられた。昭和46年(1971)に衣笠邸の住宅部分は取り壊され、残された旧門衛所は「門の家」と呼ばれ、現在は聖ヨゼフ修道院のゲストハウスとして使用されている。建物は、煉瓦壁と木造軸部から構成されており、柱を意匠として表に表すハーフティンバー構造を用いた、チューダー・ゴシック様式の建築である。外観は、ほぼ当初の姿を残しており、中世的な雰囲気醸し出す美しい建物である。また、門は御影石と煉瓦を用いて門の家と一体的に造られており、全体の意匠に調和を生み出している。門の家は広大な旧住友家邸宅の面影を伝える貴重な遺産であり、また歴史的景観の構成要素としても重要なものとなっている。

和幸庵

[京都を彩る建物や庭園]



■133

昭和28年(1953)以前に福德銀行創設者が材木商から買い取った役190坪の邸宅で、能楽や茶道・華道を楽しむ活動の拠点となっている。

平野の家 わざ 永々庵

[京都を彩る建物や庭園]



■597

大正から昭和に活躍した日本画家山下竹斎の邸宅兼アトリエとして、大正15年(1926)に建てられた木造の建物。近年、数寄屋大工による保存修理工事が行われ、現在は、茶道教室、いけばな教室、後援会、コンサートの会場として活用されている。

速水滌源居(北区)

[歴史的意匠建造物、京都を彩る建物や庭園]



◆786 ■6

春は奥庭の桜、初夏はもみじの新緑とみずみずしい青苔、秋は燃えるような紅葉、冬は静寂の中の雪景色として四季折々、様々な面を露地・庭が見せてくれる。

住宅建築に茶の湯空間を付加した京都ならではの茶家の建築である。等持院近くから腰掛を移築してきたり、古材を用いて茶室をつくるなど、歴史性の継承を表現することで風格ある空間となっている。数寄屋風の門から茶室までの直線的なアプローチが奥行きを深さを強調し、迫力がある。

[国登録文化財]



衣笠会館※
国登録

織成宿所 上七軒

[京都を彩る建物や庭園]



■12

日本のお茶屋発祥の地である上七軒で廃業されたバー形式のお茶屋さんを隠れ家的に使用。さすが上七軒と呼ばれるに相応しい貫禄がある。

北野天満宮周辺のその他の歴史的資産(3)

■ 樹木等

クログネモチ
：金襴八幡宮 北F07 [区民の誇りの木]

形が整えられたクログネモチで、秋には赤い実がひときわ目立ちます。



クロマツ
：二条天皇香隆寺陵 北F12 [区民の誇りの木]

端正に仕立てられ、御陵の静かな雰囲気をつくっています。



ソメイヨシノ：
衣笠小学校 北F17 [区民の誇りの木]

昭和24年の創立記念に植樹され、土手に沿って18本並んでいます。



ツバキ：
地藏院 北F18 [区民の誇りの木]

五色八重散椿で、白、赤、桃、絞りなどの花が咲き分けます。現在のツバキは2代目で樹齢は約100年といわれています。本堂の前で美しく咲き、散椿の名のとおり、花びらが1片ごとに散ります。



クスノキ：
翔鷲小学校 北F04 [区民の誇りの木]

紀元2600年を記念した植樹運動の一環として、昭和15年に植えられました。



ツガ：東向観音寺 上京F09 [区民の誇りの木]

十一面観音像を安置する本堂が東向きなので、この寺名がつけました。



イブキ：宍清寺 上京F10 [区民の誇りの木]

宍清寺がこの地に移った昭和6年以前から、イブキはこの場所にありました。



クスノキ：宍清寺 上京F11 [区民の誇りの木]

クスノキの根や葉からとれる樟脳(しょうのう)は、薬品として用いられます。



クスノキ：
財)京都こども文化会館 上京F12 [区民の誇りの木]

入口付近の広場の植樹帯に育つ、会館のシンボルです。



モミ：
大將軍八神社 上京F13 [区民の誇りの木]

大將軍は、陰陽道の方位の神。境内のモミは整った樹形をしています。



景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

北野風致地区

【概況】

当地区は、北野天満宮、平野神社、御土居等の歴史的建造物とその周辺の地域から構成され、北野天満宮では、社殿北側の樹林を成長させ、境内の梅林を養成し、さらに御土居周辺の樹木等、緑の増加に努めており、優れた緑地空間が形成されている。また平野神社境内では、境内に数多くの桜の木が植えられており、京都の花の名所となっている。

【良好な景観の形成に関する方針】

●北野天満宮と平野神社の境内環境及び緑の濃い紙屋川沿岸の閑静な住宅地

北野天満宮と平野神社は独自の境内環境を示し、また、これをつなぐ紙屋川沿岸は緑の濃い河川と閑静な住宅が優れた風致を形成している。このため、北野天満宮と平野神社の2神社と紙屋川とのまとまりのある歴史的景観を維持する。

北野天満宮境内では、社殿の北背後には樹林が茂り、境内西側は史跡御土居に守られている。これらの効果的な自然的要素を保全する。

●紙屋川と御土居の緑豊かな歴史的な風致

紙屋川は河床が深く、緑豊かなその土手は秀吉の時代の御土居の姿を伝えており、この歴史的な風致を維持する。



1) 御土居の緑



2) 平野神社境内の樹木



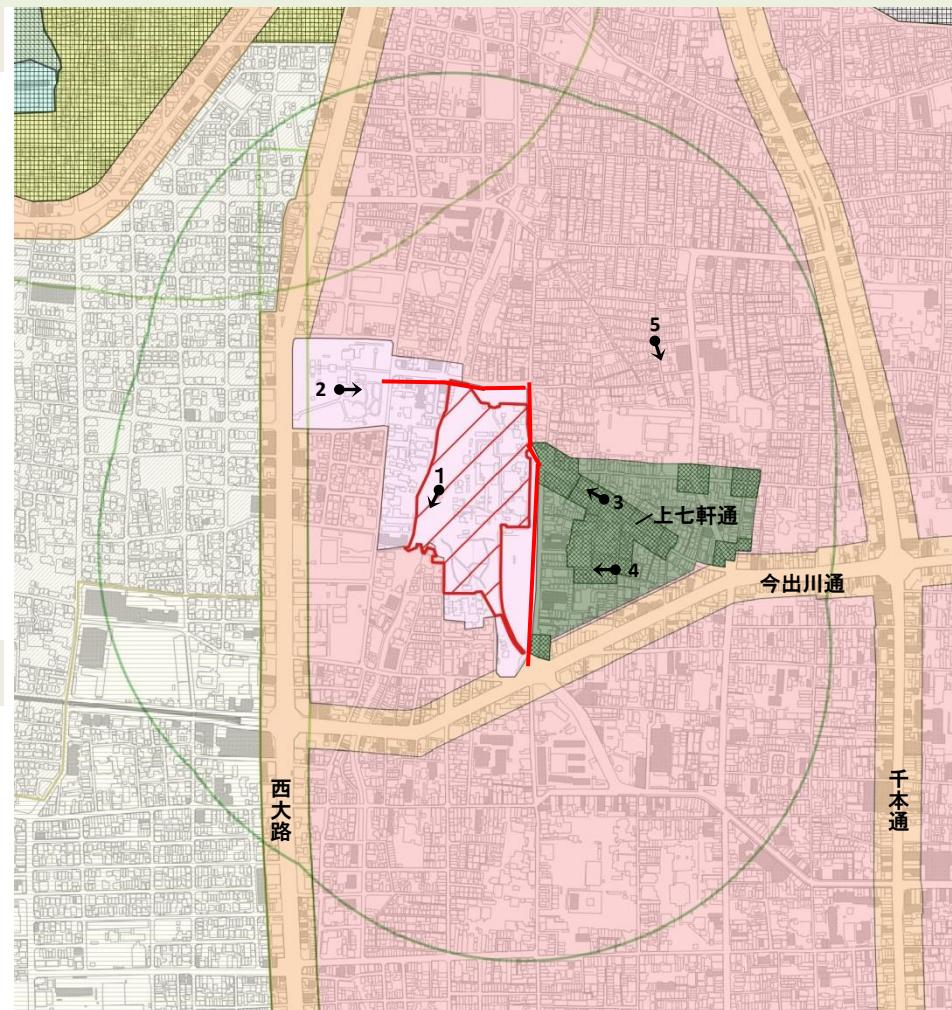
3) 上七軒通



4) 地区内のまちなみ



5) 西陣のまちなみ



上京北野界わい景観整備地区

【景観の特性】

市民の信仰を集める北野天満宮（947年祭祠）、千本釈迦堂（1221年建立）が建立され、それらの門前町として形成された歴史の古い市街地である。特に、北野神社の東門前に位置する北野上七軒は、京都では最も歴史の長い茶屋町で、門前町の賑わいと芸能文化の発展に寄与し、優雅で落ち着いた町並みを形成してきた。

一方、当地区は西陣機業の集中する市街地でもあり、その関連業も含む同業者町を形成し、職・住が共存した趣のある町並み景観を呈している。

上七軒通、七本松通、五辻通など通りごとに、町の機能や性格そして景観を異にし、地域の固有性を発揮している。

【景観整備の目的】

- ・上記の特色ある景観を維持又は整備すること。
- ・地場産業の発展によって形成された町や家づくりの知恵や作法を評価し、町並み景観づくりに生かすこと。
- ・通りごとの景観特色をより鮮明にするよう景観づくりに配慮すること。特に、数寄と華が感じられる茶屋建築で構成される町並み景観は、地域特色を強調するものであり、後世にこれを伝えとともに、魅力ある生業や生活が営めるよう環境の維持に努めること。

旧市街地型美観地区(西陣)

西陣地域は、北大路通の南側から丸太町通の北側まで、西大路通から堀川通に囲まれた地域に加え、今出川通以北の小川一体を含む広大な地域（沿道型美観形成地区及び歴史遺産型美観地区等を除く）から構成される。

西陣地域には、北野天満宮や平野神社をはじめ、高密度な市街地のなかの各所に社寺が立ち、境内の緑がオアシス的な役割を果たすと同時に、通りから望見できる豊かな社業や樹木が、町並み景観上のアクセントとなっている。

また、これらの地域には、土間などを織場とした住宅である織屋建の特徴的な京町家が多く残る。さらに、今出川通以北の小川の周辺において、本法寺や妙顕寺、千本中立売以東の浄福寺通周辺には、浄福寺などの寺院が集積しているため、通りから多くの伽藍や土塀等を見通すことができ、京町家と一体となった歴史的な町並みを形成している。こうした京町家や社寺等の歴史的建造物と社寺の緑とが調和する景観特性を継承することを、この地域の景観形成の基本方針とする。

このため、建築物は勾配屋根を設け、道路に面して空地を設ける場合は門や塀、生垣等を設置すること等により、京町家や社寺との連続性に配慮し、町並み景観の保全、創出を図る。

【凡例】

眺望景観保全区域	景観地区
視点場（境内）	山ろく型美観地区
視点場（参道等）	山並み背景型美観地区
近景デザイン保全区域	岸辺型美観地区
風致地区	旧市街地型美観地区
風致地区第1種地域	歴史遺産型美観地区 一般地区
風致地区第2種地域	歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区
風致地区第3種地域	歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区
風致地区第4種地域	重要界わい景観整備地域
風致地区第5種地域	沿道型美観地区
風致特別修景地区	市街地型美観形成地区
建造物修景地区	沿道型美観形成地区
山ろく型建造物修景地区	
山並み背景型建造物修景地区	
岸辺型建造物修景地区	
町並み型建造物修景地区	
その他	
伝統的建造物群保存地区	
歴史的風土保存地区	
歴史的風土特別保存区域	

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

- 1) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第7巻 上京区. 平凡社. 1980. p.426
- 2) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.150
- 3) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.583
- 4) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.159
- 5) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.459
- 6) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第7巻 上京区. 平凡社. 1980. p.426-p.427
- 7) 下中邦彦. 日本歴史地名大系. 第27巻 京都市の地名. 平凡社. 1979. p.665
- 8) 同上、 p.666
- 9) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第7巻 上京区. 平凡社. 1980. p.385
- 10) 同上、 p.426
- 11) 同上、 p.426-p.427
- 12) 下中邦彦. 日本歴史地名大系. 第27巻 京都市の地名. 平凡社. 1979. p.666
- 13) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.505
- 14) 下中邦彦. 日本歴史地名大系. 第27巻 京都市の地名. 平凡社. 1979. p.665
- 15) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第7巻 上京区. 平凡社. 1980. p.426
- 16) 同上、 p.385
- 17) 同上、 p.368
- 18) 同上、 p.408
- 19) 同上、 p.427
- 20) 下中邦彦. 日本歴史地名大系. 第27巻 京都市の地名. 平凡社. 1979. p.665
- 21) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.183
- 22) 同上、 p.583-p.584
- 23) 同上、 p.458
- 24) 同上、 p.724
- 25) 同上、 p.180